

皆さんこんにちは。早いもので平成二十四年度の終業式の日を迎えました。三月一日に五十八名の三年次生、四年次生が卒業しました。送辞と答辞を述べてくれた二年生の小野さんと卒業生の山口君の、先輩方の卒業を祝福する想いや、多くの方々、特に家族の支えのおかげで卒業の日を迎えることができたという心のこもった内容に来賓の皆様を始めとして、多くの出席者の皆様が感動を覚えた素晴らしい卒業式であったと思います。

一、二年生の皆さんも式にふさわしい整然とした態度と、心を込めて歌ってくれた式歌、校歌は卒業生にとっても心を揺さぶられる最高の学校行事になったものと確信しています。皆さんにあらためてお礼を言いたいと思います。

さて、この一年間を振り返って見てどんな感想を持っているでしょうか。「歳月人を待たず」という言葉を聞いたことがあると思います。時間は決して人を待ってくれない。年月は人の都合にかかわらず、刻々と過ぎ去ってしまうものだから、一日一日を大切に過ごさなければならぬという教えです。この一年が無意味であったという人は、なぜそのような過ごし方であったかということをしつかりと反省し、四月からの新しい生活に備えてください。

先日、生徒の皆さんや保護者の方々に平成二十四年度の学校評価の結果をお知らせしました。四段階評価ですので、各評価内容三、〇以上を目標にしています。ほとんどが三、〇以上かそれに近い数字であり、また、昨年度と比較してもほとんどの内容で評価の数値が上がっています。

しかし、残念ながら一つだけ極端に低い内容がありました。それは「本年度のキャッチフレーズや校訓を知っている」という評価内容です。あらためて、なぜこのキャッチフレーズなのか、この校訓が定められた経緯は何なのかについてお話ししますので、皆さん一

人ひとりの胸にしつかりと刻み、この中央高校で学ぶ意義をしつかりと自覚してほしいと思います。

キャッチフレーズは「押し開こう、力強く、希望の扉を！」です。これは私が二年前に本校に赴任した際、「どんな困難に出会っても、くじけず立ち止まることなく、中央魂である『不撓不屈』の精神で、自分の目標に向かって突き進んでほしい」という願いを込めて定めました。

校訓は、前方右上に掲示されているように、「誠実 自律 協力」です。これは平成五年に昼間部が設立されたのをきっかけとして改定されたものです。それまでの校訓は、「誠実な心をもって、己に克ち、困苦に耐えて勤労と勉学に励む」というものでした。通信制と夜間部の生徒を励ますために大変ふさわしいものであったのですが、昼間部が新たに加わり、新しい学校に生まれ変わったのを記念して見直されることになりました。

そこで各課程から一つずつ推薦する言葉を持ち寄ってつなげられたものが今の校訓となっています。通信制が「誠実」、昼間部が「自律」、夜間部が「協力」です。人に対する「誠実」を基本としながら、社会的に「自律」して人間性を高め、世のため人のため「協力」する、そんな生き方を目指して定められたのです。

このようにして定められたキャッチフレーズと校訓を胸にしつかりと刻み、佐世保中央高校の生徒としての自覚を強く持ち、高校生活がさらに充実したものになることを願っています。

さあ明日から春休みに入りますが、この休みは三、四年次生、二年次生へ進むための大事な充電期間です。特に最終学年を迎える二年次生は、進路決定をしなければならない重要な時を迎えます。休みを利用して進路に関する情報を集めて整理し、目標とする進路が実現できるよう、無駄のない春休みを過ごしてください。